なぞる練習だけでなく、字形の理解やマスの色分けの工夫も有効！

神奈川県立保健福祉大学 リハビリテーション学科 学科長・教授　笹田哲

今回のでこぼこポン！のテーマは「文字の書き方の発明品」です。

文字学習は小学１年生から、ひらがな、漢字を一文字ずつ筆順や「とめ」、「はね」、「はらい」などの点画、字形について学びます。文字を書くために必要な能力は、文字の形を判別する、書き順を覚える、文字の意味を理解する、文字の形や書く位置を考えるなどの認知の機能があげられます。それ以外の能力には、文字・紙・マスなどを見るため、目からの視覚情報を処理する視知覚の機能も重要となります。

番組の冒頭、でこりんは、マスから字がはみだしていました。はみ出さないように収めるには、見本の字を「なぞる練習」で向上しないことがあります。字をマスに収めるには、字形の全体を捉え、同時にマスの大きさも捉えながら、字形とマスの大きさを調整させる視知覚の「図（figure）と地（ground）の弁別」、「空間における位置」と呼ばれる機能が関与します。ポンが「文字の形や書く場所を自分で覚える」や「文字を書くとき、どうしても鉛筆の先に集中しちゃうけど、一旦鉛筆から目を外して、マス全体を見ることが大事」と話していたように、字の細部に注目するだけでなく、字形の特徴（三角形、長方形など）を学んだり、書いているときは、マス枠にも注意をむけて大きさを確認することで、文字の大きさや始点の位置を決めることが可能になっていきます。

「ひとみメガネ」で、でこりんが文字を書く時の見え方を示した映像は、近視や弱視、また視野狭窄の障害によって見られないのではなく、脳で視覚情報の処理が十分にできていない状態の例をイメージ化したものです。見え方には、認知機能など複数の要因が関係してきますので、皆このように見えるのではなく個人差があります。

マスの輪郭や位置を見やすくする工夫として、「もじれんしゅうチョウ」では水色、黄色、ピンク、緑で４等分のマスにしていました。色の見やすさも個人差があります。漢字では左右、上下の ２ 等分のマスにすることで視認性がよくなる場合があります。でこりんが 「もじれんしゅうチョウが、すーっと、とか、くるっとって言ってくれたのが、すごく助かったよ！」と話したように、運筆の際に視覚情報の他に、聴覚情報（「すー」「くる」）の活用も組み合わせるのも有効になります。

鉛筆を持って字を書くため手指の巧緻動作も当然求められます。上手に手を動かすには体幹が安定していること、椅座位姿勢の保持能力も必要です。鉛筆の持ち方や姿勢も観察し、必要に応じてサポートしていきましょう。